1．はじめに

新嘗祭を終えた現在、改めて秋季例大祭を振り返ってみると、これは確かに常会あげての労力を使う一大行事だった。行事や準備作業の仕事量の多さ、不備があってはいけないという緊張もあるが、①本当屋を初めて経験する者が多い中で、②過去の資料では十分に分からず、③全体をアドバイスしてくれる者も居らず、④結局は自分たちで聞きまわってやるしかないという“本当屋丸投げ”の仕組みであった。

手引書があっても良い

例えば、資料は残っているものの最終版が分からず、表だけでどうしたのか書いていない。幟は全部出して枚数と寄贈者の確認から始めざるを得なかった。お旅行列の並び順は当屋で異なっているし、毎年作る注連縄も稲作道具の借先を見つけることから始める必要があった。

そのため、今回の大坪常会の経験を手引きのような報告書に作ることにした。例大祭を円滑に運営するため多くの資料を作ったが、主な資料だけを実績を反映した内容に修正した上でここに添付した。また、細かな内容の資料は、参考として大坪常会のブログに保管することにした。

2．実績

（1）行事・作業一覧表

行事と準備作業の実績を日付順に整理した一覧表を**資料-1**として添付した。

全体の流れが分かる。

この報告書では、本当屋の活動を行事と準備作業に分けた。行事とは神事に付属するものとして前夜祭、大祭、送り祭、新嘗祭、とんどを含めた。準備作業は、胴卸し、衣装渡し、巫女の舞・楽打ち・保存会の練習などの儀式的な要素を含むものと、会合や事務作業、注連縄作り、幟立て、注連縄張り、撤収・片付けなどに分けた。

（2）本当屋の運営体制

大坪常会の構成人数は15戸で、うち14戸が作業要員を出した。また、2か月に1回常会を開いているので集まることに支障はなかった。

ア．本当屋寄り

例大祭だけを議題にする常会を「本当屋寄り」と名付け、R6年3月～10月で8回ほど開いた。

資料は、当屋総代と行事頭領らが用意し、結果も整理して後から配布した。会合の内容を**資料-2**として添付した。

結果も配って周知

前夜祭と大祭の運営のために「運営表」と「役割（参加者）別日程表」を作って関係者に配布した。

幾つか不備（不足や誤り）があり混乱した。

イ．本当屋内の連絡体制

電話の緊急連絡網や回覧板もあるが、主に①本当屋寄り、②パソコンメールでの情報交換（約半数）、③常会グループ LINE、④常会専用ブログで意見交換や周知を図った。

かなり良く整備された常会と思う。

特にグループ LINE は、雨天で日程変更する時など急な連絡手段として非常に有効だった。ブログは文書資料が掲載・保存できるので日程表、役割表などの周知には非常に有効だったし資料の保管場所としても有効である。

14 戸中 12 戸加入

ブログは専門知識を持った人が居たおかげ

ウ．本当屋からの連絡

当屋総代は、地区総代や総代会との連絡を担った。当屋総代を含む本当屋役員は、当屋内の常会長への連絡のほか、道具の借用や行事の仕方の聞き取り、役割表への参加要請などを通じて当屋内外との連絡を取った。

本当屋役員と行事相談役（当屋常会長、地区総代）による連絡会議は作らなかった。

組織化してれば役割表作りが容易だったかも

エ．文書の作成と配布

本当屋として以下の文書を作成し、「当屋寄り」以外は中の村当屋域を超えて配布した。域内に対しては他にも幾つか文書を作成し配布した。

文書名	配布時期・方法	作成者、資料
「当屋寄り」開催案内	7 月下旬？	当屋総代、**資料- 3**
役割申込書	8 月 25 日、会議で配布	当屋総代
志賀神社秋季例大祭のご案内	8/25 当屋寄り、9/9 各戸配布	当屋書記ほか、**資料- 4**
当屋請儀式役割表		当屋総代、**資料- 5**
チラシ（例大祭、六神儀）	10/8～、各戸・新聞折込	行事総頭領
志賀神社新嘗祭のご案内	11/8 各戸配布	当屋書記ほか
チラシ（新嘗祭）	11/20 新聞折込	常会長ほか

（3）例大祭前の準備作業

以下に注連縄作り、幟立て、注連縄張り、舞台作りなどや付属事務などの準備作業の実績を説明する。

ア．注連縄作り

a．R5 年秋の作業

ほ場の確保：モチ米稲の水田 3 アール分を確保

過去の資料から 3 アールにした。

稲刈り：10 月 16 日（月）

・バインダー（借用）で稲刈りし、その稲束をコンバインで脱穀してワラ束を回収（10～12 時）

・ハゼ干し棚を作ってハゼ干し（13 時半～15 時）

保管：11 月 15 日（水）13～14 時

・乾いたワラ束を駅組倉庫（借用）に搬入、ブルーシートを敷いた上に積み上げ

・ハゼ干し棚の撤去

b．R6 年秋の作業

①9 月 14 日（土）16～17 時：ワラを駅組倉庫から舞殿に搬入

軽トラ 2 台分の量
ネズミ害はほぼ無し

②9 月 15 日（日）8 時～10 時半：ワラほぐし作業

道具類：センバ 2 台、1 トンローラーとユニック車、タライ 2 個、ビニル袋 8 枚、各自マスク

作業手順：

・ローラー掛けのため舞殿前広場に畳を 2 列に 4 枚敷いた。

・舞殿舞台でワラ束をセンバにかけ、タライで先端を揃えて積上げた。

ワラゴミが多量に出る。大きなビニル袋に入れて持ち帰った。

・ワラ束を畳の上に並べ、ローラーで 1 往復したあと、舞殿の隅に積み上げた。

◆：ローラーの効果はよく分からない。綯いの時にクレームは出なかった。

③9 月 22 日（日）8 時～11 時半：注連縄綯い

・中の村当屋の共同作業

道具類：必要な大注連縄と小注連縄および房（鈴）の数や長さの表、必要な道具および作業手順書（**資料- 6**）を用意した。

本当屋は 7 時半から

大注連縄作り：舞殿の舞台で指示者、綯う人（3 人）、小ワラ束を綯う人に渡す人、小ワラ束を作る人で構成。完成した注連縄には取付場所を示す付箋を付けた。

大注連縄が 2 つ出来たところで祓い殿に搬入。神事が行われた。作業を抜けて本当屋の 4 役が列席した。

小注連縄作り：舞殿前広場で購入した縄（左縄）を表に書いてある長さに切って束ね、取付場所を示す付箋を付けた。

房（鈴）作り：師匠を含め 4 名で作成した。

保管：完成した注連縄と房は、祓い殿で保管した。

◆大注連縄は 1 組で作った。慣れた指示者が居れば 2 組で作る場所もあるので作業も早く終わる。

◆手綯い縄を作る人は居なかった。

軽トラ 1 台半、水田 2 アール分の稲ワラで足りると思う。

◆ワラが多量に余ったので希望者に配った。

イ．幟立て・注連縄張りの準備

幟立て・注連縄張りは、当屋全員で当たる大きな作業なので、事前に本当屋だけで青竹切りと幟立て等の準備作業を行った。

①青竹切り

10 月 6 日（日）13 時半～15 時

道具類：鋸、鎌、充電式ノコギリが良い。

孟宗竹竿：大注連縄用で境内駐車場横の竹林から切り出した。

真竹：小注連縄用の葉付き。江の川河川敷から切り出した。

保管：舞殿

境内の真竹は葉色が悪い。
2 週間前なので大祭の時には葉が枯れ色

②幟立て等の準備

10 月 12 日（土）13 時半～15 時

・ 13 日の作業班分けを念頭に以下の準備をした。

［幟の関係］

幟の仕分け：立てる幟を班別に分け舞殿舞台に並べた。

金具類：支柱止め金具 36 個、先端用塩ビパイプを 18 個を舞殿前広場に並べた。

孟宗竹竿：総代会が舞殿の舞台裏に保管していたものを使用

塩ビパイプの内径が竹竿の先端の太さに合うかの確認が必要

［注連縄の関係］

大注連縄：祓い殿から舞殿舞台に運び、作業班ごとに取付け資材（紙垂、針金など）と一緒に置いた。

小注連縄：１つの常会が行うので、舞台に小注連縄と取付け資材（紙垂、ワラ、針金など）をまとめて置いた。真竹は必要数を舞殿から持って行ってもらうことにした。

注連縄は、取付け場所の付箋付き

紙垂は、宮司がすべて作成し提供された。

ウ．幟立て・注連縄張り・帳場の設置

10 月 13 日（日）8 時～10 時、中の村当屋の共同作業。作業分担計画書（**資料-７**）に基づいて各常会が割り振られた作業を行った。

［道具］脚立、スパナ、ペンチなど（各常会が自発的に持参）

［資材］紙垂（宮司より）、ワラ（小注連縄に取付け）、ステン針金 2 巻、カラー針金（緑：お旅の青竹用）1 巻、（ブロンズ：大注連縄用）2 巻

①幟立て

・１班 5 名の 2 班で境内の幟を立てる計画とした。

・全部で 18 基の石支柱（16 基が境内、2 基が祭礼原）

・立てる位置を決めた幟（寄贈者名による）とそうでない幟

・孟宗竹竿に幟を取り付け、石支柱の２つの穴にそれぞれ輪金具を差し込んでナットで軽く留める。

・その輪に竿を差し込んで立ててからナットを締めた。

各常会から２名の計画。指名が不明確で人が集まらず、本当屋中心の混成で立てた。
ナット径が 32 ミリと大きい。ウォーターポンププライヤで軽く締めれば十分

②注連縄張り

［大注連縄］

・前 6 カ所のうち 3 か所（祓い殿と白鳥社）を A 常会

・他の 2 か所を B 常会が担当した。

祭礼原に１つ

［小注連縄］

・C 常会が担当。紙垂とワラを取り付け、それを所定の位置に取り付けた。

紙垂の取付けはホッチキスを使った。

・お旅途中 5 か所の青竹立てと注連縄張りも担当した。

③帳場作り

・常会員数の少ない D 常会が担当した。

・神輿蔵の床下に保管してある単管パイプとクランプなどを所定の位置に搬出し組み立てた。

組立て方が分からず、写真を見て組み立てた。座板一式を坊田氏が寄贈した。

④祭礼原

幟立てと注連縄張りを地理的に近い E 常会が担当した。幟用の竹竿は、境内のものを普通トラックで運んだ。

◆持参する道具類を指示しなかったが、作業は順調に進んだ。

◆作業班の編成は、常会ごとが機能するようだ。

エ．提灯取付けと舞台作り

舞台作りは、舞殿で六神儀を催すために行った。作るにあたっては、舞台の図面（**資料-８**）を用意して保存会との打合わせ（9 月 13 日）や仮付け（10 月 2 日）などの事前準備を行った。幕が足りず、古いものなど使えるものを全部使った。

提灯は、宮司が 10 月 17 日午後にほぼ一人で取り付けられた。以下の作業は、10 月 17 日（木）13 時半～15 時頃まで本当屋が行った。

①舞台と楽屋作り

・舞殿背部と右手を白色ブルーシートで覆った。

風よけ

・舞台への幕の取付けは舞台図面のとおり。右手が楽屋になるので出入口の幕の取付けを工夫した。

使った幕は、プラ衣装箱に防虫剤を入れて神輿蔵に保管した

・吊り下げ幕は、約 10 ㎝の釘で梁に止めた。

・平面に張った幕（ブルーシートを含む）はタッカーで留めた。

連合自治会から紅白幕（幅 1m 長さ 8m）2 枚を借用

・舞台図面の「一段高い舞台」に置いてある畳を舞台に敷き詰め、余った畳は舞台裏に隠した。

②音響装置の準備

・ワイヤレスマイク（７個）、アンプ、スピーカー（２個）のセットを川立神楽団から借用した。

・神楽の伴奏音（DVD）を祭りの期間中に流し、祓い殿からの祝詞も拾おうとしたが、何れも実施できなかった。

アンプを操作する人が居なかったこと、電波が届かなかったこと

③照明器具の設置

・舞台中央の上に舞台照明用の蛍光灯(1 本 40w が 2 本)が 6 基ある。この清掃と不良な蛍光管 3 本を交換した。

蛍光灯は埃まみれ

・演技者を正面から照らすため、舞台の外の両サイドに LED 投光器を各 1 台設置した。

照明器具は三共リースを使った。

・観客席の足元を照らすため、提灯型の LED 照明 3 基、帳場の手

元照明を 1 台設置した。

オ．その他の準備作業

a．JA の傷害保険に加入

①対象の行事と作業

注連縄作り、幟立て・注連縄張り・帳場作り、前夜祭、大祭

②契約内容

・死亡時 300 万円で掛金は一般が@24 円、危険作業（高所、神輿担ぎ）@186 円。対象者名簿の提出が求められる。

掛金抑制のため危険作業の範囲を絞ること。

b．道路使用許可申請

お旅行列の申請書を三次警察署に届けて許可を得た。なお、前夜祭と大祭の金の御幣宅（集会所）から神社へ向かう行列は、前例にしたがい、許可申請していない。

①申請手続き

中 2 日で許可されるとのこと。

祭礼による道路使用は無料

②川地駐在への提供

三次警察署は川地駐在には通知しないとのことだったので、許可証のコピーを川地駐在に提出した。

c．交通整理要員の確保

・川地交通安全協会に協力要請したが断られた。

10 月 6 日

・「花受け」が交通整理を兼ねることにした。

d．胴打ち用太鼓バチ飾り、六神儀の団扇と杖飾りの補修

・文具店で和紙染紙（金、銀、紫、黄、緑、赤）と糊を購入

・太鼓バチは、用紙を重ね切りそろえた上で共同作業

・六神儀の団扇と杖は、本当屋役員がひとりで補修した。

e．駐車場草刈り

・神社入り口の線路向かい側の空き地を臨時駐車場にした。

・神社駐車場の収容能力と入口が急坂なので利用が多い。

18 日に自走式草刈機で

・空地の使用は、児玉氏（駅組）を通じて地主の了承が必要

f．神輿用台車のタイヤチェック

・コンプレッサーを持ち込んで空気を入れ回復した。

お旅に台車は使われなかった。